

令和 8 年度 川崎市公園緑地等整備計画推進委員会
第 1 回 生田緑地ばら苑再整備検討部会 会議摘録

1 開催日時

令和 8 年 9 月 1 日（火） 10 時 30 分～12 時 00 分

2 開催場所

川崎市役所復元棟 2 階 201 会議室（オンライン併用）

3 出席委員

金子 忠一 委員長、倉本 宣 委員、垣内 恵美子 委員、葉袋 奈美子 委員、橘 たか 委員、佐藤 慶一 委員（計 6 名）

4 事務局

・緑政部長		磯部 由喜子	
・みどり・多摩川事業推進課	担当課長	小藪 隆文	
・みどり・多摩川事業推進課	担当係長	渡仲 百絵	
・みどり・多摩川事業推進課	担当	川島 和馬	
・みどり・多摩川事業推進課	担当	川原 瑠依紗	
・みどりの保全整備課	課長	山本 豊	
・みどりの管理課	課長	中村 豊	
・生田緑地整備事務所	所長	松本 茂人	（計 8 名）

5 会議の公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

4 名

7 次第

1 開会

2 議題（1） 生田緑地ばら苑管理運営整備方針（案）について

8 議事摘録

【次第1 開会】

緑政部長 (開会挨拶)

事務局 (委員の紹介)

現地には、東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 元教授 金子 忠一様、明治大学 農学部 元教授 倉本 宣様、日本女子大学 建築デザイン研究科 建築デザイン専攻 教授 薬袋 奈美子様、オンライン参加では、政策研究大学院大学 名誉教授 垣内 恵美子様、武蔵野大学大学院 非常勤講師 橘 たか様、専修大学 ネットワーク情報学部教授 佐藤 慶一様にご出席いただいている。

事務局 (職員の紹介)
ここからの進行は会長にお願いしたい。

金子会長 それでは、次第に従い委員会を進める。『会議の公開について』、事務局から説明されたい。

事務局 川崎市審議会等の会議の公開に関する条例第3条の規定に基づき、附属機関等の会議は原則公開となる。そのため、本委員会については、公開により審議を行う。

【各委員 了承】

金子会長 ご意見がなければ、本会議については、事務局からの説明のとおり、原則公開として進めていきたいが、よろしいか。

【各委員 了承】

金子会長 それでは、会議は公開を原則として進めていきたい。本日は、傍聴希望者は居るか。

事務局 傍聴希望者は4名である。

金子会長 本日は、傍聴希望者が居りますので、入室を許可する。

【次第２ 議題】

金子会長 それでは、次第にしたがって進める。議題（１）の生田緑地ばら苑管理運営整備方針(案)について、事務局で説明した後に、委員の皆様から御意見、御質問等をいただきたい。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局 （会議資料１ 「生田緑地ばら苑管理運営整備方針（案）概要版・本編」に基づいて説明）

金子会長 それでは、委員の皆さんから意見、質問等をいただきたい。オンラインでご出席の方が多いため、順番に伺う。会場の倉本委員のお考えを伺いたい。

倉本委員 ・「秘密の花園」について、周囲に人工物が見えないことがばら苑の特徴となっているなかで、最近になってナラ枯れが繰り返し発生することがわかってきており、青森県では一度ナラ枯れが下火になってから、再度より深刻なナラ枯れ被害が発生している。何もしないとばら苑外周の樹林が持つ遮蔽効果は継続できない。

 ・ナラ枯れを予防するためには 20 年毎に皆伐更新を行って樹林を若返らせる必要があるが、そのような管理を導入する場合も、遮蔽効果の継続はできないため、今後はばら苑の遠景だけではなく、近景への樹木の配置による遮蔽にも配慮すべきかもしれない。

 ・生田緑地全体の課題でもあるが、定期的な皆伐更新は市民主体の管理では難しい。「秘密の花園」の理念を実現するため、実現可能な将来性も見据えた樹林管理計画が必要であることを考えていただきたい。

金子会長 事務局から回答をお願いします。

事務局 「秘密の花園」と外周樹林の関係は大事と考えている。現在のばら苑周辺は樹林に手が入っていないことが課題であると考えている。外周樹林に必要な管理を行うこととあわせ、ばら苑内の樹木により遮蔽機能を補完していく提案についても検討していきたい。ばら苑の構成に関しても、現在のバラ主体の花壇だけではなく、中木・高木もある一定必要と考えている。生

田緑地全体との連携が樹林管理の面で必要になってくると考えており、計画への位置づけは難しいと考えているが、今後連携を図っていきたい。

金子会長 続いて薬袋委員のお考えを伺いたい。

- 薬袋委員
- ・方針のタイトルが「生田緑地ばら苑」のみになっているが、新たなミュージアムや生田緑地全体も含めた方針であれば、「ばら苑地区」「ばら苑周辺地区」というように広げた表現はできないか。資料1の4ページの「9. ばら苑及び周辺施設の空間イメージ」について、新たなミュージアムの設置場所周辺を「文化ゾーン」と呼んでいるが、生田緑地全体でみれば、「文化」に係るゾーンは他にも多くある。生田緑地に既存の「文化ゾーン」とどのように区別、あるいは連携していくかを表現できる名称が望ましい。
 - ・「オープンスペース」についても、誤解を招くことのないよう既存の樹林を維持することを踏まえた名称、「森のなかのオープンスペース」などに改めるのが望ましい。
 - ・この図に描かれている新たなミュージアムの外形が既存の斜面に重なっているが、斜面に残る樹木をなくすることが前提のように見えないように描いていただきたい。
 - ・「秘密の花園」の理念を大切にするためにも、アプローチゾーンから見たときの沈床花壇としてのばら苑の印象を大切にするといった表現はあった方がいい。ミュージアムの建築の大きさを確保するのであれば、地下を掘るなど方法はあるのではないかとされるため、市民文化局と協議調整をいただきたい。
 - ・「10. ばら苑ゾーンの考え方」について、いろいろなコーナーがある印象があり楽しみとは思いますが、図のピンク部分にしかバラがないように見えてしまう。バラ以外の面積の方が圧倒的に広いように見えるため、違う表現にしていきたい。
 - ・5ページに「休憩施設とアートの融合」として掲載されている事例写真がばら苑らしくない。苑内にも既存の彫像があり、そうしたこれまで苑内にあったアート作品の継承といった方針を示すのも必要ではないか。
 - ・6ページの事業手法について、PFI 方式は事業者の収益性が重視されるため、ばら苑にはなじまないのではないかと感じている。もう少し選択肢のある記載にしておいてほしい。

- ・スケジュールについて、新たなミュージアムとの一体整備のため時間がかかるのかもしれないが、できるだけ早く市民にばら苑を楽しんでいただけるよう、上手に整備を進めてほしい。
- ・資料1に公共交通でのアクセスについての記載がないのは気になる。「誰もが気軽に来られるようにする」といった記載があるとよい。

事務局

- ・本委員会のタイトルについては、新たなミュージアムとの連携や生田緑地全体とのつながりが大切ということが伝わるよう、事務局としても見直しを含め、検討している。
- ・「文化ゾーン」や「オープンスペース」の名称の妥当性についても指摘を踏まえて検討したい。
- ・新たなミュージアムの図はモデルプランとして標準的なパターンを描いているが、市の意向として伝わる可能性を心配されていると思う。造成の可能性も一定程度あるなかで、どの程度で表現していくべきか検討したい。
- ・ばら苑ゾーンの考え方の図はバラ以外の部分が多い印象を受けるという指摘について、どのゾーンにもバラを主役とした修景が展開されることが伝わるよう表現を見直す。
- ・次ページの事例写真は、ばら苑と新たなミュージアムの間に位置する交流ゾーンの考え方として提示したものであり、市民が常時利用できる場所がばら苑とは若干異なる利用イメージとなることを例示する意図があった。ばら苑内での「アートとの融合」は、やはりばら苑にふさわしいものになる。誤解を生まないよう、市民文化局と調整しながら表現を検討する。

薬袋委員

周囲の樹林地になじむようなイメージを大切にしてほしい。イケ・サンパークの事例写真には少し違和感がある。

事務局

事業手法については現在調整中の事項ではあるが、指摘の内容について検討する。スケジュールについては、市側としてもなるべく早く開苑し、市民の皆さまにご提供したい思いがあるため、検討をしてきたい。アクセスについては指摘を踏まえて記載できるかも含めて検討したい。

金子会長

続いてオンラインでご出席の委員の皆さんに伺う。垣内委員のお考えを伺いたい。

垣内委員

- ・ばら苑そのものの考え方については、無料ゾーンやオープンスペースなどが検討されており、市民に開かれたばら苑をつくっていこうというコンセプトが明確に示されたことを高く評価したい。24 時間通行可能な動線を設ける際は夜間の安全確保が課題となるが、開かれたばら苑というコンセプトは非常にいいと思う。有料・無料ゾーンの区別についても、有料ゾーンでの変動料金制の導入など、市民の負担を少なく、よりアクセスしやすくするといった非常に明確なメッセージが感じられてよいと思う。こういったあり方について、今まで活動されていたボランティア団体や関係者など市民の方々もすでに納得していると理解してよい。
- ・生田緑地全体の管理運営について、既存施設では指定管理者と市の直営の関係がうまくいっていると認識しているが、ばら苑と新たなミュージアムが新たに加わることによって、それらとの連携と回遊性をどのように考えるか。
- ・ばら苑と新たなミュージアムとの一体整備について、具体的にはどうなるのか。PFI 方式でどこまでを「一体的」とするのか。ばら苑と新たなミュージアムでそれぞれに管理者が入り、連携していくのか。PFI 手法にはハードとソフトの両方が含まれるが、ハードの整備にコストの大半が充当され、その後の活動等のソフト面に必要な配慮が足りなくなる事例を多く見てきた。PFI 手法の導入に当たっては、事業者選定の評価基準においてソフト事業についても十分な目配りをしてほしい。
- ・物価高騰と人手不足が今後も続くと言想される中で、スピード感を持って進めてほしい。

金子会長

事務局から簡潔な回答をお願いします。

事務局

- ・今まで活動してきている市民の皆様にご理解いただけているかについては、市民の皆様が大事にされてきた「秘密の花園」という言葉を核としてばら苑のコンセプトを構成しており、この言葉に込められた市民の想いを大切にしつつ、今後も市民理解を得るための取り組みを継続していく。
- ・生田緑地全体の管理運営の連携については、大切なことと認識しており、ミュージアム側ともこの件について意見交換を進めている。ばら苑もバラの文化を継承し伝えていく拠点となるこ

とから、新たなミュージアムと一体となって他地区との連携を進めていきたい。

- ・ばら苑と新たなミュージアムとの一体的な整備・連携の具体的なイメージについて、それぞれ担当する分野は異なるが、統括すべき部分是一緒にやっ払いこうと協議を進めている。
- ・ハードの整備に重点が置かれる懸念については、ばら苑及びその周辺を大切に育てていきたいという前提に立って、評価基準などをしっかり作り込んでいきたい。また、整備にコストが偏ってしまう懸念についても、市側で度々議論している。行政側が事業内容をきちんと監視していくことも必要と認識している。

金子会長 垣内委員、今の発言を受けて、追加で御意見があるか。

垣内委員 管理も一体とのことであつたが、新たなミュージアムの学芸分野の直営と、ミュージアムとばら苑を一体とした管理運営を担う事業者が入るのか、それともばら苑は分離して異なる事業者が入るのか。

事務局 整備・管理とも一つの事業者での実施を考えている。ミュージアムの学芸は分離し、直営でやっていくという方向で現状は考えている。広報などは一体となってやっていく方が効率的・効果的な分野があることは、現状の生田緑地中央地区でも認識されているため、同様の手法を採用して行きたいと考えている。

垣内委員 全く同感である。ぜひその方針で進めてほしい。

金子会長 続いて、橋委員に発言をお願いします。

橋委員

- ・事業者側に求める要素として、市民参加のコーディネート機能を重視すべきであり、そうした役割を指標として加え、しっかり評価しないとけない。
- ・スケジュールの話題で整備に時間がかかるという話があつたが、その時間を生かし、ばら苑とミュージアムの連携や、事業者、市民、行政の関係構築などの取り組みを進め、整備後にそれが花開くように進めていけるとよい。

事務局

- ・ばら苑・ミュージアム双方に既存のボランティアが存在し、そ

れらが一体となるよう、市民参加をコーディネートする仕組みが必要と考えている。そういったところも民間事業者に求められるよう評価指標を定めていきたい。

- ・この取り組みに計画・整備段階から行政と事業者がしっかり関わり、市民参加の醸成を図っていききたいと考える。

金子会長 続いて、佐藤委員に発言をお願いします。

- 佐藤委員
- ・資料1のタイトルについて、「管理運営整備方針」となっているが、整備と管理運営の時系列的な順番を踏まえると「整備管理運営方針」の方が適切と思う。
 - ・ばら苑の整備にあたって、近年の猛暑・豪雨に対応するため、屋根付きあるいは空調設備がある休憩スペースがこれまでより広めに確保される必要があると思う。
 - ・高齢化が進む中で、車いすに対応した動線の整備や、エスカレーター等の移動を補助する施設の設置なども必要と思う。
 - ・土砂災害警戒区域に係る災害への備えと災害時の対応については、ハードで防ぎきれない部分をソフトで補うという防災の基本的な考え方に沿って進めるべきと思う。
 - ・防災対策として防護壁を設置することが一般的だが、景観や生態系への配慮を両立させた形で、ばら苑でも同様の検討が可能と思う。また、建物の1階部分に土砂流入を許容する構造も考えられる。
 - ・管理運営の中でのソフト対策を進めることも大事で、土砂災害などの危険性があることの周知、避難動線の明確化、避難訓練の定期的な実施、などの備えが考えられる。
- 事務局
- ・指摘の点のなかにはミュージアムとの連携によって解決すべきことも多い。猛暑の中、涼しい空間を提供する方法については、ミュージアムのピロティや多目的室などの利用が考えられる。あわせて授乳室などのサービスについても連携が可能と考えている。高齢者や足の不自由な方に向けたバリアフリー動線の確保についても、ミュージアムとの連携により充実が図れる。
 - ・土砂災害警戒区域に指定された斜面も貴重な緑地と捉えており、ソフト的な対応に重点を置いて対策を講じていきたい。事業者側からのアイデアも受けつつ、市民とともに災害対策を進めていきたい。

- 金子会長 最後に、私から委員として質問する。まず、この事業は PFI 方式を想定して検討を進めているとのことだが、その対象範囲は明確になっているか。
- 事務局 資料 1 の 4 ページ左の図でピンクの破線で囲ってある範囲を想定している。ミュージアムを含め約 3.8 ヘクタールを一体として民間事業者の参画を求めていきたいと考えている。
- 金子会長
- ・この範囲には、先ほど話題になったオープンスペースが含まれるが、その空間を樹林地も含めてどんな場にしていくかという方針をもう少し明確にする必要があると思う。
 - ・生田緑地全体との連携という話題が出ているが、この資料にも生田緑地全体としてどうマネジメントしていくかという点についても記した方がいいと思う。参考資料としてもよい。
- 事務局 交流ゾーンの記述について、自然との関係を含め民間事業者に求めることをしっかり示した方がいいという指摘を踏まえ検討したい。生田緑地全体との連携については、一体的な仕組みとして運営するには、より詳細な内容が必要ということか。
- 金子会長 生田緑地全体としてマネジメントしていく仕組みをどのように考えていくかということは、他のエリアの関係者にも提示する必要があると思うが、そうしたこともばら苑・ミュージアムとあわせて検討していくべきではないか。
- 事務局 了解した。
- 倉本委員 市民協働の拡大を図る上では、既存の活動団体ではなく、個人のファンを対象にしていく必要があるが、生田緑地マネジメント会議は、生田緑地で活動している団体が参加する組織であり、個人での参加を認めてこなかった経緯がある。今後は、新たに参加したいという個人をコーディネートしたり、まとめたりするような新たな役割が必要であり、既存の会議の方法を抜本的に変えていくことも視野に入れた検討をすべきと考える。
- 事務局 市民協働をコーディネートする機能が必要と考えている。ばら苑・ミュージアムを中心に東地区が動いていくにつれて、市民

協働の規模感もかなり変わってくると想定される。指摘の通り、現状のマネジメント会議で受け止めきれんかということも課題になると思う。この事業期間を生かし、これからそういった枠組みも皆様と一緒に考えていくことも必要と思っている。

- 磯部部長
- ・生田緑地マネジメント会議は意思決定ができる組織ということで、既存組織の会員の参加が前提となっているが、今後ばら苑などのボランティアとの関わりが広がっていく中で、会議や市民協働のあり方について、ご意見を伺いながらきちんと考えていきたいと思う。
 - ・生田緑地に係る事業者間の連携にあたっては、生田緑地ビジョンという大きな方針があり、そのなかでこの東地区の方針も定めている。ばら苑・ミュージアムの事業者を募集するに当たってもしっかりと伝えられるようにしていきたい。

金子会長 橘委員に発言をお願いする。

橘 委 員 市民活動には人員が長く変わらない傾向があり、つき合う上でのわかりやすさがある一方で、新たな参加を促す際の障壁にもなりうる。既存の会議をドラスティックに変えていく方向もあるとは思うが、既存の団体と一緒に歩むような組織を複数加えていく方向もありうる。そのためには、たくさんの視点を持ちながら交通整理をしていくようなイメージで、ざっくりとしたビジョンだけを共有し、それぞれの思いが多少違って共歩していけばいい、といった方針でコーディネートする人材が必要になると思う。コーディネーターは長く関わり続ける必要があり、人が変わるごとに方針や関わり方が変わってしまうようなことがないよう、事業者を上手に評価ができる仕組みがあるとよい。

金子会長 予定の時間も迫っているが、さらにコメントしておきたいということがあれば伺いたい。

薬袋委員 生田緑地ビジョンの次回の改定はいつ頃を予定しているか。

事 務 局 生田緑地ビジョンは 10 年毎に改定している。一昨年策定しているため、次回の改定は 8 年後ということになる。

- 葉袋委員 ばら苑が完成する頃に改定時期を迎えることになる。その頃にはアクターも変わってくるだろうし、環境も変わってくるだろうから、そこで必要なことを議論しようという考えか。
- 事 務 局 次の生田緑地ビジョン改定の際には、ばら苑・ミュージアムだけではなく、恐らく小田急電鉄の向ヶ丘遊園跡地利用計画の方も現状とは状況が変化していると想定されるため、その際にはこれまでと異なる新たな議論が必要になると考えている。
- 金子会長 限られた時間の中で様々な意見をいただき、これからの検討の参考になったと思う。事務局では委員の意見を参考に、さらに対応を深めていただけたらと思う。
- 事 務 局 本日も議事運営にご協力いただき、ご審議いただきましてありがとうございます。このあと委員への事務連絡となります。傍聴者の皆様は配布資料を机上に残したまま退出いただきますようお願いいたします。それでは最後に閉会の挨拶でございます。それでは、磯部緑政部長よろしくをお願いいたします。
- 磯部部長 本日、大変貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。今日はっきりお伝えできたこととして、ミュージアムとばら苑が同一事業者で一体的に整備も運営もしていくというところがございます。現在、PFI 事業で想定をしていますが、本日いただいたご意見にもありましたような課題の整理なども進めながら、手法についても引き続き検討していきたいと思います。
- このところ、ばら苑とミュージアム双方の担当者とも、一体的に検討を進めているところでございます。この委員会の表題がばら苑のみでいいのかというところもありますが、ばら苑とミュージアムも含めたこのエリアをどうしていくかという検討をミュージアム担当とも一緒に検討しているところです。そういった中で、事業者から今後計画の提案をいただくこととなりますが、この委員会でのご意見も踏まえながら、ばら苑として大事にしたいところなどをはっきり伝えられるようにしたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

事 務 局

本日はどうもありがとうございました。それでは、以上をもちまして、令和８年度川崎市公園緑地等整備計画推進委員会第１回生田緑地ばら苑再整備検討部会を終了いたします。本日はありがとうございました。

以上